黒毛和種子牛にみられた腎異形成症の１例

但馬基幹家畜診療所
○川上　徹　山城　幸夫　山村　佳宏　齋藤　隆文

腎異形成は腎血管系、尿細管、集合管または排出器官における発生異常とされる。今回尿毒症と貧血を主徴とする症例に遭遇し病理解剖を行ったところ、腎異形成症と診断したのでその概要を報告する。

材料および方法

1.農家概要　黒毛和種繁殖雌牛 37 頭を飼養

2.症例牛　2015 年 9 月 8 日生　雄

3.臨床経過　症例牛は出生後より発育良好であったが、2015 年 9 月 29 日（22 日齢）に元気消失との稟告にて求診。T41.2℃、活力欠、起立困難、肺音粗励、皮温高。第 3 病日には症状好転するも、第 5 病日 T41.0℃、活力低下、起立不能。第 8 病日 T38.6℃、活力鈍、哺乳欠、起立可能も動作緩慢、血液検査所見は MCV26.8fL、MCH9.8pg、BUN130mg/dL 以上、Cre8.8mg/dL。以後加療を続けるも、第 29 病日体温 36.0℃未満、活力欠、横臥位呈し衰弱著明、予後不良と診断し和田山家畜保健衛生所にて病性鑑定を実施した。

結果

解剖所見：腎臓は左右とも退色、硬化し、表面は粗造で凹凸を認めた。肝臓は腎臓に接している部分にフィブリンが付着していた。その他の主要臓器に著変は認めなかった。

組織所見：腎臓は皮質から髄質にかけて尿細管の著しい拡張、管腔内に好中球・細胞退廃物・好酸性液を認めた。糸球体数は減少しており、幼若な糸球体も散在していた。また間質には膠原繊維を多量に認めた。その他の主要臓器に著変は認めなかった。

細菌検査：有意菌は検出しなかった。

考察

腎臓は糸球体での濾過と尿細管における再吸収を経て尿を生成し老廃物を体外へ排出させ、また赤血球の産生を促進するエリスロポエチンを生成している。本症例においては生前の血液検査所見より BUN と Cre は増加、MCV と MCH は低下し、明らかな腎機能の低下を認めた。

解剖所見では病変は腎臓に限局しており、腎臓の退色、硬化、表面の凹凸の形成などを認めた。組織所見では尿細管の拡張、糸球体数の減少、幼若な糸球体の散在、間質の膠原繊維の存在などを認めた。

以上より、本症例は腎異形成症と診断した。